

## 1. アクセスサッポロ及び(一財)札幌産業流通振興協会の概要

(経)国際経済戦略室

- 財団設立 昭和57年(1982年)2月18日 (開館:昭和59年(1984年)6月8日)
- 出資目的 道内外の工業製品等の展示紹介等を通じて、本道産業の高度化と経済取引の円滑化及び流通機能の拡大強化を図り、もって経済の健全な発展に寄与することを目的とする。
- 基本財産 50百万円(市:30百万円、道:10百万円、経済団体:10百万円) ⇒ 出資割合60%
- 市からの財政的関与 0円(平成30年度実績)  
(補助金・負担金・委託料)
- 建設・管理主体 (一財)札幌産業流通振興協会
- 建設経緯 本市出資金と(財)日本自転車振興会の補助金を主な建設費財源※とし、財団が施設を建設・所有している。このことから、当該施設は公の施設ではない。

※施設の建設費財源	
札幌市出資金	2,050百万円
日自振補助金	400百万円
札幌市貸付金	595百万円
建設協力金	45百万円
<b>合計</b>	<b>3,090百万円</b>

## ■施設と財団の在り方に関する検討状況

平成20年度	『札幌市出資団体改革新方針(H21.2)』にて「札幌市における展示場機能の在り方を検討していく中で、平成21年度中に財団の今後の在り方や施設保全計画等を策定するよう指摘を受ける。
平成21年度	アクセスサッポロは産業振興施設として維持すべき施設として整理。その一方で、財団の今後の在り方については、収支改善の取組状況や新公益法人制度への対応を踏まえ、財団と協議を重ねながら継続的に検討を行っていくこととした。
平成25年度	平成25年4月から一般財団法人に移行する。
平成27年度	『札幌市出資団体の在り方に関する基本方針(H28.3)』で、本市における展示機能の在り方を検討していく中で、 <b>施設と財団の在り方や、出資の見直しを検討すること</b> と定められた。
平成29年度	「市内展示機能の在り方調査」を実施する。
平成30年度	出資団体改革推進本部会議を開催し、庁内検討を行う。(平成31年2月)
令和元年度	庁内検討結果を、行政評価委員会へ報告する。(令和元年11月)

## 2. 平成29年度市内展示機能の在り方調査の結果

### ■市内展示機能の過不足状況

- 市内各施設は高稼働率であり、新たなイベントのニーズに対応できていない可能性がある。
- 共進会場の閉鎖に伴い、一部の中古車即売会において機会損失が生じている。

⇒ BtoCイベントや中古車即売会を中心にやや不足している状況

### ■市内展示機能の適正規模について

- 道外需要の取り込みは難しいが、アクセスサッポロの需要は今後も堅調に推移する見通し。
- 日ハムの本拠地移転に伴い、札幌ドームの利活用が求められる。
- 新MICE施設など新たな施設の整備計画が進んでいる。

⇒ 将来の供給増を想定した適正規模の検討が必要

### ■アクセスサッポロの利活用の可能性

- 財団の財務状況は良好で、建物も適切な保全を行うことで長期利用は可能。
- 施設の老朽化や陳腐化といった課題が生じており長期利用か早期更新か検討すべき時期。
- 検討に際しては、新MICE整備などの考慮すべき要因が存在。

⇒ 市内の展示機能を取り巻く他の施策の動向等を踏まえ適切な時期に判断

## (参考)スケジュール

・アクセスサッポロの移転・更新検討と他施策の検討スケジュールを以下に示す。

(年度)

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
アクセスサッポロ	● 出資団体改革推進本部会議	● 行政評価委員会	→ 移転更新検討											
	→ 財団による施設の管理運営													
新MICE施設	● 基本・実施設計				→ 建設				● 供用開始					

## 3. 施設と財団の在り方について

### ■施設の在り方について

#### 施設の位置づけ

- 市内で開催される「展示会・見本市」の60%以上がアクセスサッポロで開催されており、低廉な使用料を背景に、多くの市内企業の商談や情報収集の場として活用されている。
- 年間190億円の経済波及効果(H29)を生み出すなど、市内経済活動に必要な不可欠な存在である。

⇒ アクセスサッポロは産業振興に必要不可欠な施設として、引き続きその公共的な役割を果たしていく必要がある。

#### 施設更新の検討

- 市内展示機能はやや不足、また老朽化等により施設更新を検討すべき時期に差し掛かっている。
- 冬季オリパラIBC※や新MICE施設等、市内展示機能に関係する要因があり、これらを考慮した施設整備が必要。
- 大谷地流通業務団地の高度化に向けて、立地企業から団地内での種地確保が求められている。

※国際放送センター(International Broadcasting Centre)の略、後利用を想定した施設整備を検討している。

⇒ 市内展示機能に影響のある施策の動向等を踏まえながら、2020年を目途に移転・更新の是非を検討する。

### ■財団の在り方について

#### 経営状況の改善

- 高稼働率を背景に売上高が増加しており、財団の経営状況は改善しつつある。
- 2011年度に長期修繕計画を策定しており、少なくとも長期修繕計画期間(2012~2031)の収支試算では、財団による管理・運営が可能である。

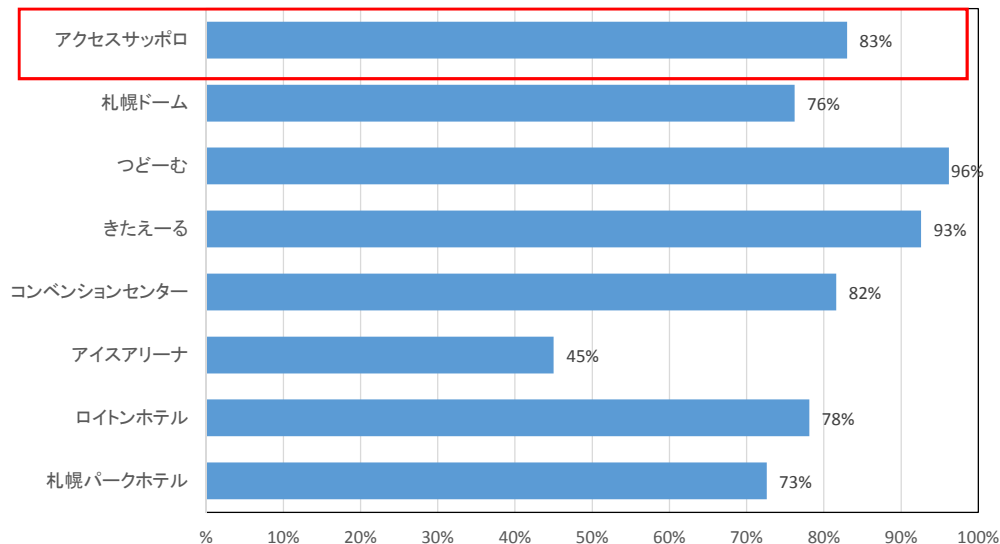
#### 本市の産業振興施策への寄与

- 当財団は、産業振興や市民生活の向上に寄与する展示会・イベントを複数開催しているほか、展示会に関わる企業同士の交流会を定期的に開催するなど、本市産業の活性化に資する自主事業を複数開催しており、本市産業振興施策の補完的な役割を果たしている。

⇒ 財団は、公共的な役割を担うアクセスサッポロを適正に管理・運営しているほか、本市産業振興施策の補完的役割も果たしている。引き続きその役割を果たしていくためには、本市による一定の関与(経営への関与や減免等による使用料水準の維持)が必要である。  
以上のことから、現施設が存続する間については、財団が管理・運営を行い、本市の出資は継続とする。

### 1 市内主要施設のメイン展示場稼働率

各施設のメイン展示場の稼働率(2016年)は、つどーむが96%、きたえーるが93%、アクセスサッポロが83%、コンベンションセンターが82%と、高水準で推移している。



### 3 財団の経営状況

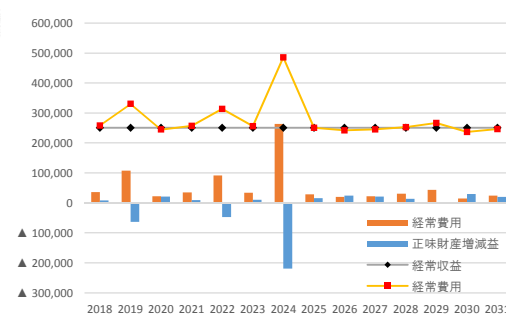
・過去5年間(2014~2018)の売上高は、高い稼働率に連動して増加している。

・今後の損益の推移(2018~2031)は、大規模修繕が見込まれる年度では、正味財産増減益はマイナスとなるものの、内部留保による対応が可能であり、当面、財団による施設の運営・管理は可能である。

■財団の売上高と稼働率の推移(2014~2018)

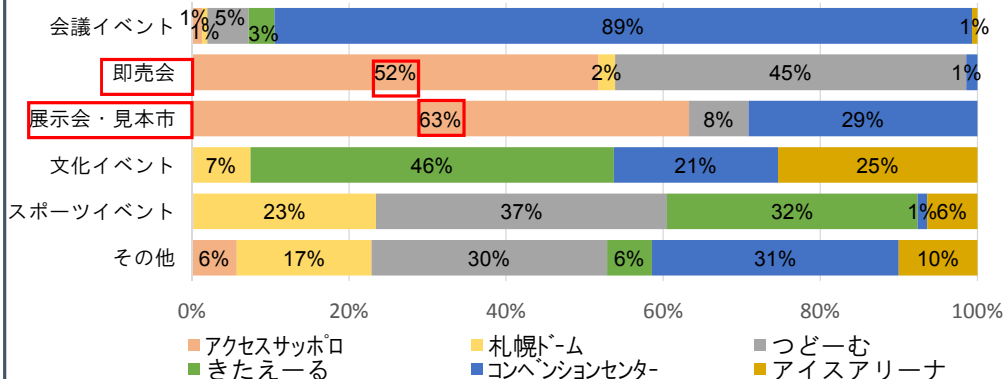


■損益の推移(2018~2031)



### 4 イベントカテゴリー別開催施設の状況

・イベントカテゴリー別の開催施設を見ると、「展示会・見本市」はアクセスサッポロが全体の6割以上、「即売会」は5割以上を占めている。



### 5 財団が実施する主な自主事業

イベント名	内容
バイヤーズマーケット北海道	北海道と道外のような企業が出展し、新たな交流とビジネスチャンスを創出すること目的として開催される展示会。
イベントランド北海道	道内で新たなイベントを企画実施しようとしている企業を来場対象としたアトラクション・ソフトを紹介する展示会。
こどものまち・ミニさっぽろ	小学生を対象とした職業体験イベント。札幌市等と共催で開催。【所管課：子ども未来局】
いきいき健康・福祉フェア	市民が健康で安心して暮らせる地域福祉の実現に向けた取組みを紹介するフェア。北海道や札幌市と共催。【所管課：保健福祉局】
北のアメ横さっぽろ	北海道の地域活性化を図ることを目的に、道産品の認知度向上及び消費拡大を図るための地域特産品販売会。

### 2 市内展示施設の状況

※土日、営利目的利用

名称	開館年	利用料金※ (円/日)	単価 (円/㎡)	メイン展示面積 (㎡)
札幌ドーム	2001(H13)年	4,840,000	334	14460
つどーむ	1997(H9)年	1,134,000	99	11484
アクセスサッポロ	1984(S59)年	902,000	180	5000
新MICE施設	2025年度	未定	未定	4000
きたえーる	2000(H12)年	2,430,000	625	3886
コンベンションセンター	2003(H15)年	577,500	222	2607
アイスアリーナ	1970(S45)年	1,884,870	1,047	1800